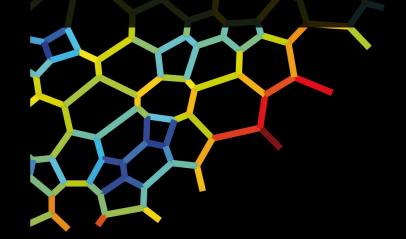
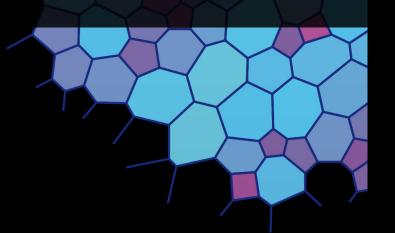




石原 秀至 (明治大学 理工) 杉村 薫 (京都大学 iCeMS)





個体発生とは

- ① 体の空間情報をもとに
- ② 細胞が増殖・分化し

③組織が変形する

ファイルサイズが 大きくなるので削除

アフリカツメガエルの初期発生 (David Shook)

力は細胞に作用し、細胞と組織の変形を引き起こす

個体発生とは

- ① 体の空間情報をもとに
- ② 細胞が増殖・分化し

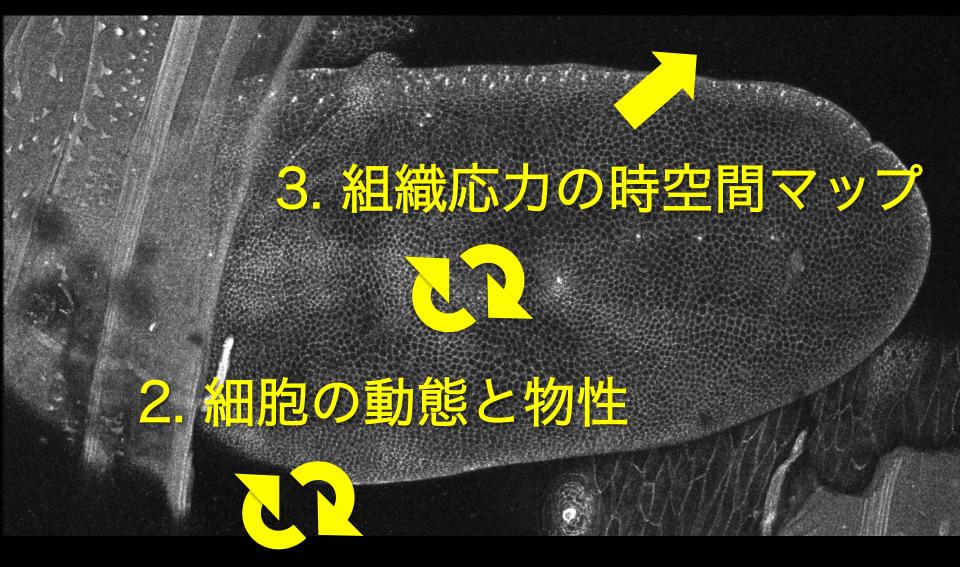
③ 組織が変形する

ファイルサイズが 大きくなるので削除

アフリカツメガエルの初期発生 (David Shook)

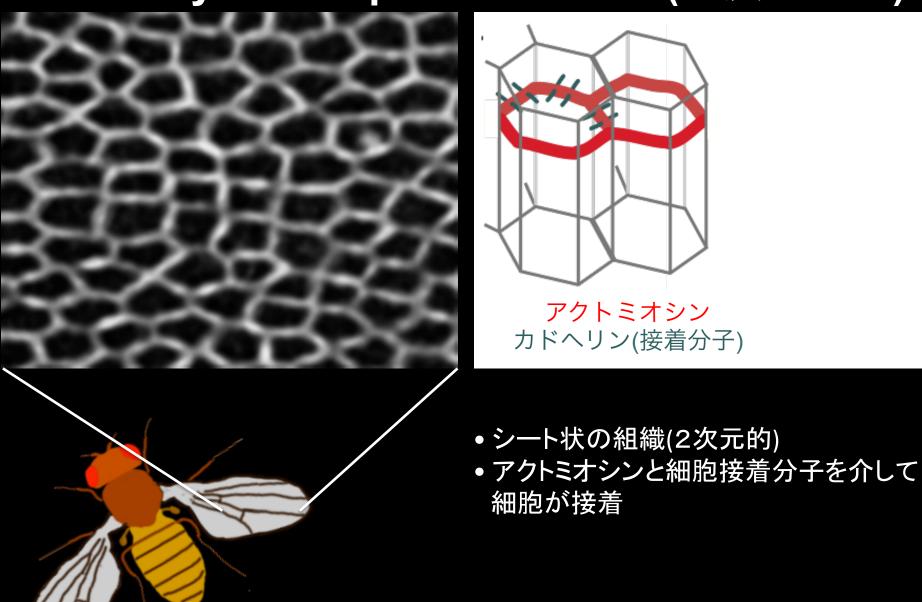
機械的な力がどのようにして正確で頑健な 生き物の形づくりを支えているのか?

4. 組織形態形成



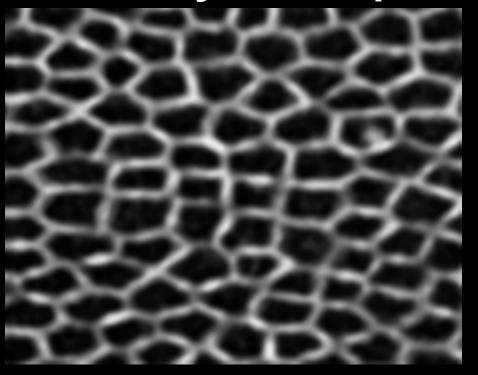
1. 分子の活性、局在

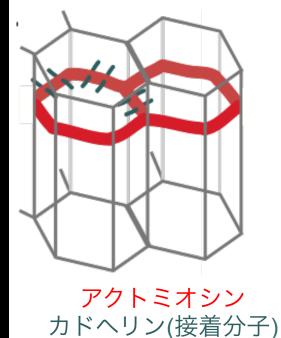
Model system: Epithelial sheet (上皮シート)



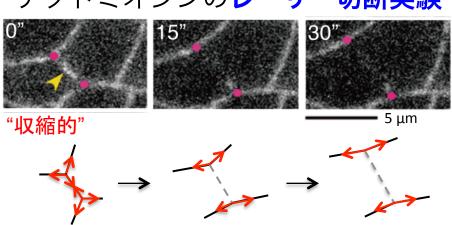
キイロショウジョウバエ

Model system: Epithelial sheet (上皮シート)





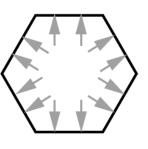
アクトミオシンのレーザー切断実験



張力

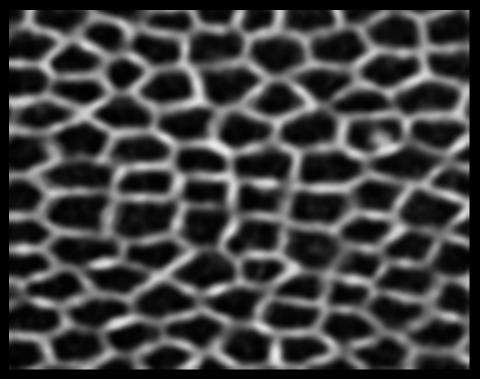


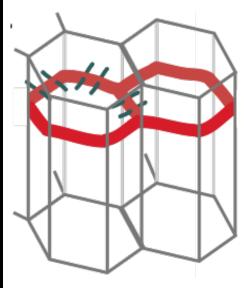
圧力



細胞質

細胞のおしあいへしあい





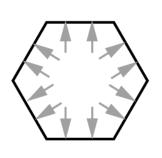
アクトミオシン カドヘリン(接着分子)



張力

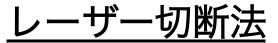


圧力

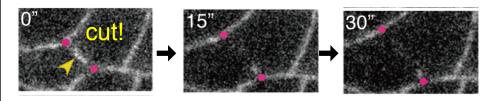


細胞質

細胞組織内の力場

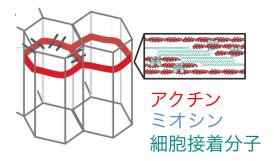


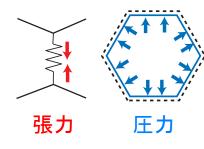
細胞接着面の張力∝頂点が離れる速度

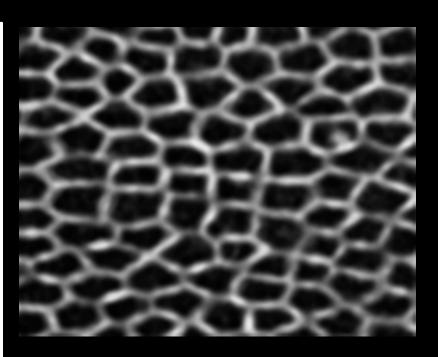


欠点: 侵襲的, 局所的

上皮組織





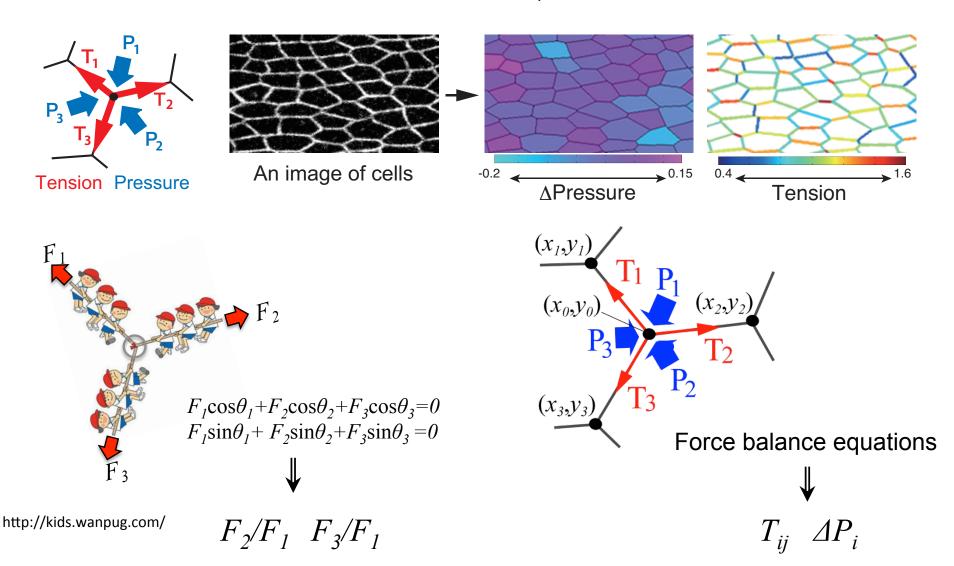


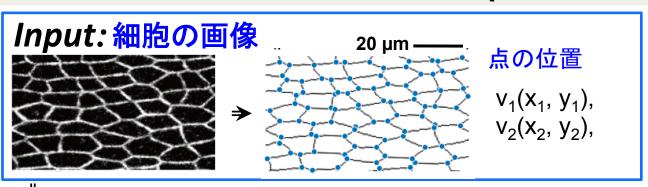
Force?

力の時空間マップの定量化手法がなかった

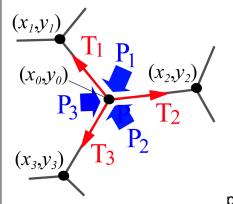
I. ベイズによる力推定手法

(Ishihara and Sugimura, JTB 2012, Ishihara et al. EPJE 2013, Sugimura et al. IEEE EMBC 2013)





各点での力の釣り合い方程式



$$A\vec{p} = \gamma \vec{V} \qquad \bar{p} = (T_1 \cdots, T_M, P_1, \cdots, P_N)$$
 pressure & tension drag
$$\vec{V} = \dot{\vec{x}}$$

$$\vec{p} = (T_1 \cdots, T_M, P_1, \cdots, P_N)$$

 $F_1\cos\theta_1 + F_2\cos\theta_2 + F_3\cos\theta_3 = 0$ $F_1 \sin\theta_1 + F_2 \sin\theta_2 + F_3 \sin\theta_3 = 0$

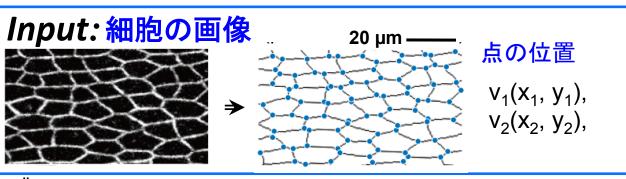
・張力 T₁ によるx方向の力

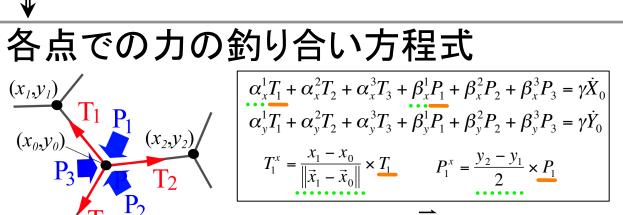
$$T_1^x = -\frac{\partial U}{\partial \ell_{01}} \frac{\partial \ell_{01}}{\partial x_0} = \frac{x_1 - x_0}{\left\| \vec{x}_1 - \vec{x}_0 \right\|} \times T_1 = \alpha_x^1 T_1$$

$$\cos \theta_1$$

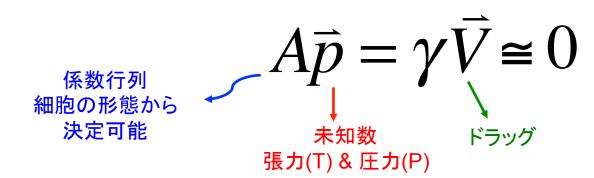
圧力 P₁ によるx方向の力

$$P_1^x = -\frac{\partial U}{\partial A_1} \frac{\partial A_1}{\partial x_0} = \frac{y_2 - y_1}{2} \times P_1 = \underline{\beta_x^1} P_1$$

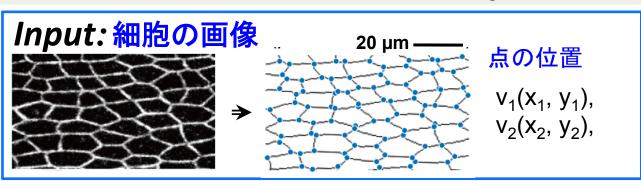




$$A\vec{p} = \gamma \vec{V} \qquad \stackrel{\vec{p} = (T_1 \cdots, T_M, P_1, \cdots, P_N)}{\vec{V} = \vec{x}}$$
 pressure & tension

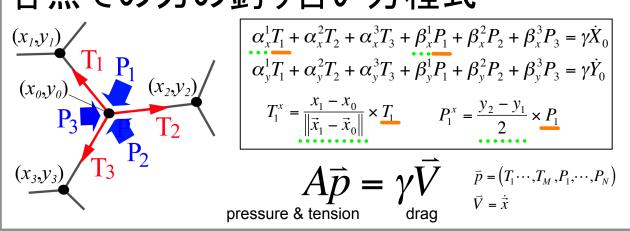


準定常状態近似 細胞は釣り合いの位置の 近くをゆっくりと動く



条件数 2 x (# of vertices)





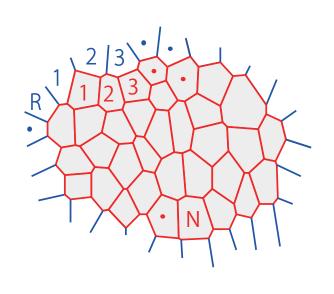


$$A\vec{p} = \gamma \vec{V}$$

NxM行列Aは正則ではない; N<M

未知数 (# of cells) (P) + (# of edges) (T)

不定性の数



- 細胞数(C), 点の数 (V), 接着面(線)数(E) C=N+R, V=v+R, E=e+2R
- ■トポロジーによる拘束: オイラーの関係式v-e+N=1
- 点の数と接着面の数の関係





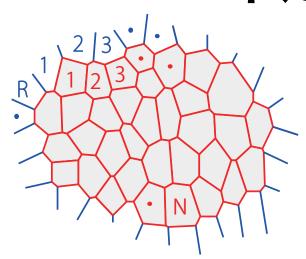
未知数 (C + E) =
$$4N - f + 3R - 3$$

条件数 (2V) = $4N - 2f + 2R - 4$



$$R+f+1$$
の不定性

不定性の物理的解釈



R+f+1 の不定性

■ 1: 静水圧

$$A\vec{p}_{iso}=0$$
, $\vec{p}_{iso}=\underbrace{\left(0,\cdots,0,1,\cdots,1\right)}_{\mathrm{T}=0}$ の固有ベクトル

→ 圧力の相対値を推定

$$P_i = cp_i + p_{hs}, T_j = ct_j$$

■ R: 境界条件

Less significant as N increases

→ 逆問題による定式化

■f:4連結点

逆問題

- ■出力から入力を推定
- ■様々な分野で現れる
 - □ EEG (脳波測定)
 - □表面波からの物体内部構造推定 (例: 地震波からの地球内部構造の推定)
 - □物体表面温度からの熱源推定問題
 - □ "Vision": 2次元画像からの3次元構造構築
- ■多くの問題が"ill-defined"
 - □条件が足らず、解が一意的に決まらない

ベイズの定理が逆問題の理論的基盤を提供する

ベイズ推定

■ ベイズの定理

事後分布

尤度関数 事前分布

P(B|A)

 $\propto P(A|B)\pi(B)$

A: 観測データ B: 推定する物理量,パラメータ

P(力|形 $) \propto P($ 形|力 $)\pi($ 力)

形:細胞形態 力: 圧力(P), 張力 (T)

ベイズ推定

事後分布

尤度関数

事前分布

P(力|形 $) \propto P($ 形|力 $)\pi($ 力)

ベイズ推定

事後分布

尤度関数

事前分布



P(力|形 $) \propto P($ 形|力 $)\pi($ 力)

尤度関数
$$P(\mathbf{N}|\mathbf{D}) \propto \exp\left(-\frac{1}{2\sigma^2} \|A\vec{p} - \gamma\vec{V}\|^2\right)$$
 中 $A\vec{p} = \gamma\vec{V} + \xi$

noise/error

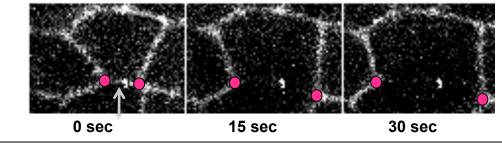
事前分布

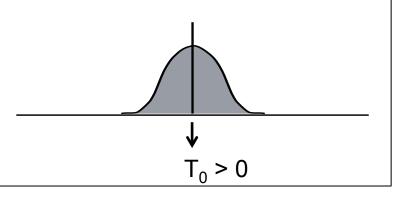
$$\pi(\vec{p}) \propto \exp\left(-\frac{1}{2\omega^2} \sum_{edge} (T_i - T_0)^2\right) \delta(\vec{p} \cdot \vec{p}_{iso})$$

正の張力

____ 静水圧効果を無視 するための因子

-ザー切断実験





正則化最小二乗法

事後分布関数

 $(1/\omega^2 = \lambda/\sigma^2)$

ア作員数
$$P(力|形) \infty \exp \left[-\frac{1}{2\sigma^2} \left[||A\bar{p} - \bar{V}||^2 + \lambda \sum_{edge} (T_i - T_0)^2 \right] \right] \delta(\bar{p} \cdot \bar{p}_{iso})$$

事後分布P(力|形)が最大となる力(張力・圧力)の値を 推定値とする(事後確率最大推定,MAP推定)

= Minimization of

$$F(\mathbf{p}) = \left\|\mathbf{A}\mathbf{p} - \vec{V}
ight\|^2 + \lambda \sum_{edge} \left(T_i - T_0\right)^2$$
 T_i

正則化項:系に対する期待

正則化最小二乗法

→ 解が一意的に決定

ウェイトの決定

$$F(\mathbf{p}) = \|\mathbf{A}\mathbf{p} - \mathbf{v}\|^2 + \lambda \sum_{edge} (T_i - T_0)^2$$
_{正則化項: 系に対する期待}

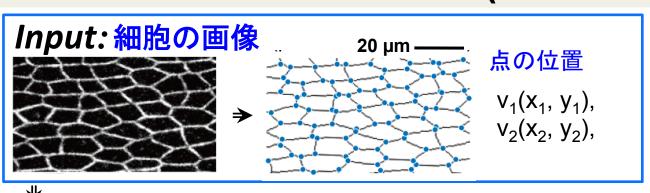
■ハイパーパラメータ

$$P($$
力 | 形) $\propto \exp\left[-\frac{1}{2\sigma^2}\left\{\left\|A\vec{p}-\vec{V}\right\|^2 + \lambda\sum_{edge}(T_i-T_0)^2\right\}\right]\delta(\vec{p}\bullet\vec{p}_{iso})$

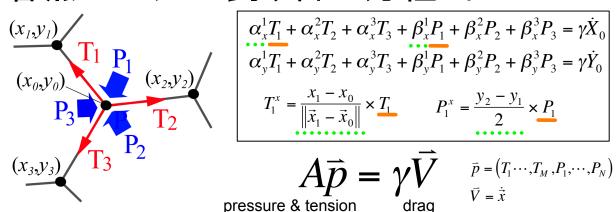
■ σ², μ を辺尤度最大化により決定する (ベイズの利点!)

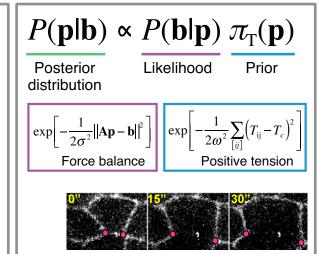
$$L_{II}(\sigma^2,\lambda) = \int P(S \mid F)\pi(F) dF$$

- □ 'フィッティング' と '正則化' のバランスをとる
- □ 経験ベイズ

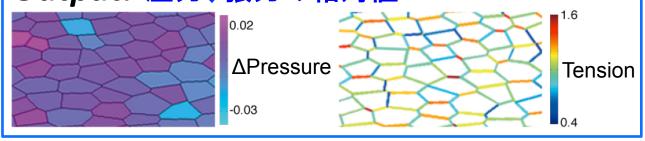


各点での力の釣り合い方程式









人工データによるテスト

数值計算:

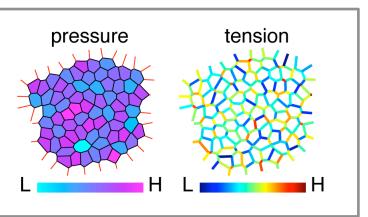
$$U = \sum_{Cell:i} U_e(A_i) + \sum_{Contact:j} U_a(l_j) + \sum_{Cell:i} U_c(L_i)$$
 Area Cell adhesion, Cortical elasticity Contraction elasticity

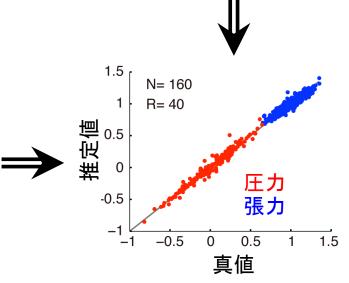
★ 圧力・張力の 真値を計算



力推定:

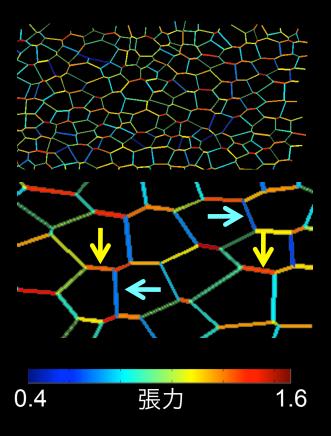
真値を隠して形態 のみから逆推定





ショウジョウバエ翅の力場パターン

張力の推定値





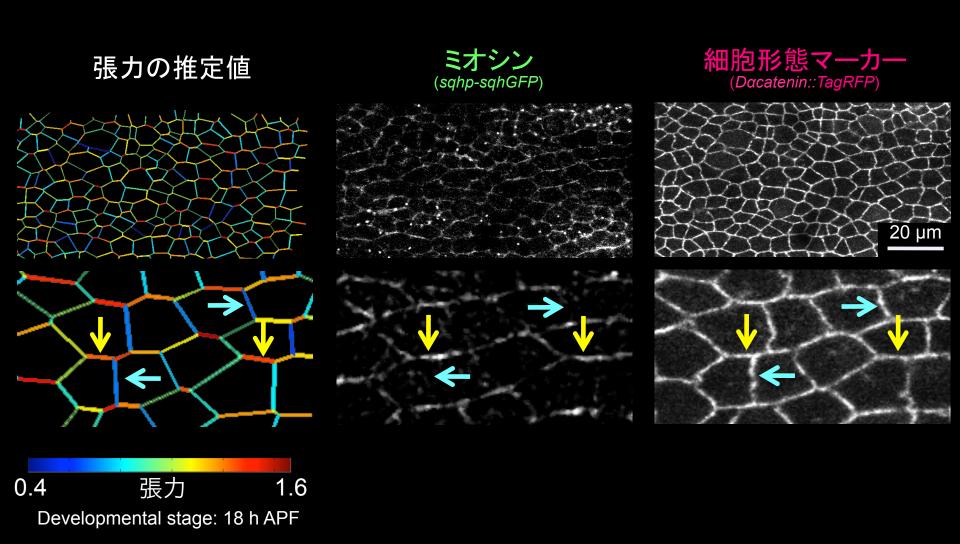


- よく調べられているモデルシステム
- かたちづくりの様々なコンセプトを提供

Developmental stage: 18 h APF

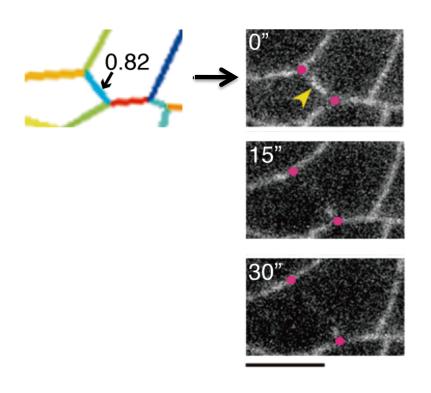


推定した張力とミオシン局在パターンの相関

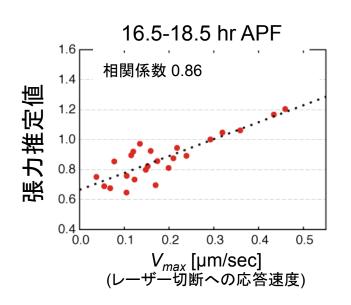


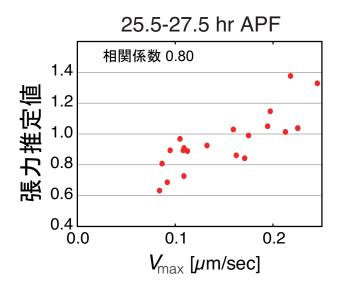
P P P

レーザー切断実験との比較

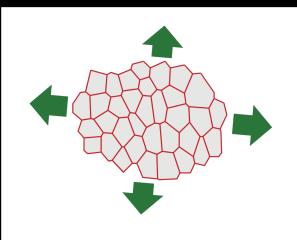


(左) 切断直前の画像データから力推定を行う。 (右) 切断後の応答。



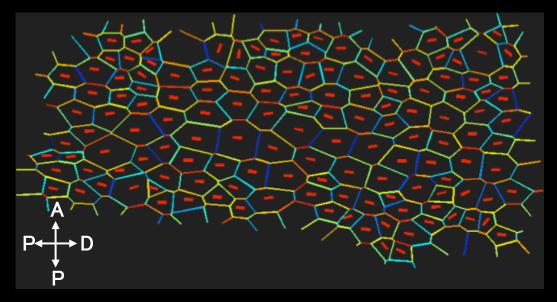


応力テンソル

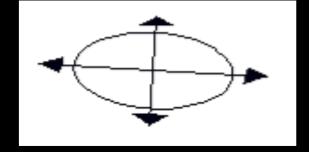


Bachelor tensor

$$oldsymbol{\sigma} = rac{1}{A} \left(-\sum_{i} P_{i} A_{i} \mathbf{I} + \sum_{[ij]} T_{ij} rac{oldsymbol{r}_{ij} \otimes oldsymbol{r}_{ij}}{|oldsymbol{r}_{ij}|}
ight)$$



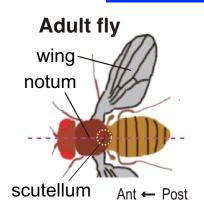
応力楕円

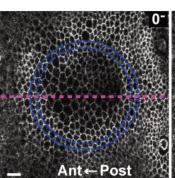


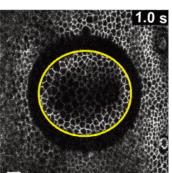
一 ローカルな最大応力方向

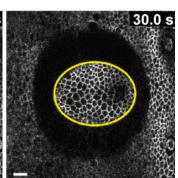
大域的な細胞切除実験との比較

細胞切除後の細胞集団の異方的な応答

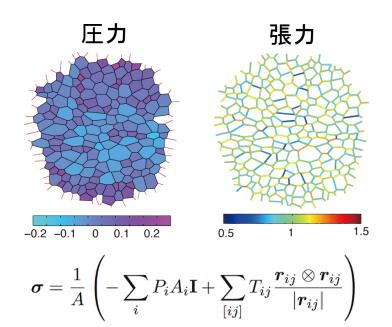


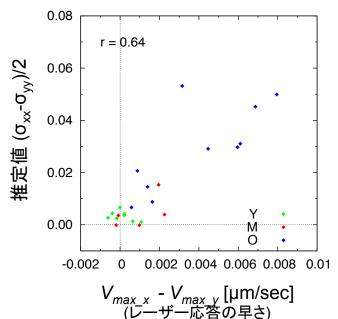






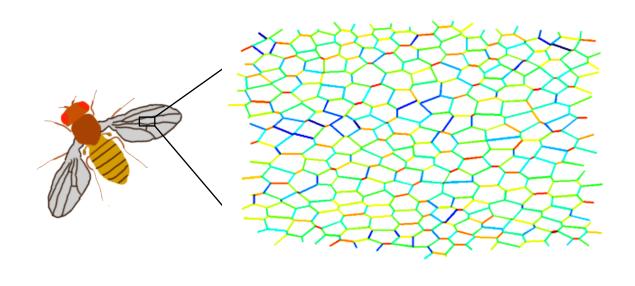
Bonnet et al. JRSI 2012





Ishihara et al. EPJE 2013

形態形成の力学制御を階層横断的、定量的に解析することが可能に



- ① 単一細胞解像度 > 1000細胞
- 2 非侵襲的
- ③ モデルフリー

分子・細胞動態との対応→ 組織の応力を定量力のゆらぎも含めて推定

→力の時間変化

→ 細胞の物理特性の推定

ベイズ統計学の参考文献

東京大学教養学部統計学教室 「自然科学の統計学」 東京大学出版会 (1992)

松原望 「入門ベイズ統計―意思決定の理論と発展」 東京図書 (2008)

C.M. ビショップ 「パターン認識と機械学習」シュプリンガージャパン (2007)

石黒・松本・乾・田邉 「階層ベイズモデルとその周辺」岩波書店(2004) 特に1,4章

紹介した研究について

Ishihara and Sugimura, J. Theor. Biol. (2012)

Ishihara et al., EPJE (2013)

Sugimura et al., IEEE Eng Med Biol Soc (2013)

Sugimura and Ishihara, Development (2013)

石原 & 杉村, 実験医学 (2013)